

電機・情報ユニオン

2020年12月10日 第111号

発行 電機・情報ユニオン

〒142-0043 東京都品川区二葉

2-20-8染野ビル2F

Tel03-6421-5323、Fax03-6421-5324

Email: denkiunion@gmail.com

日立製作所発祥の地で雇用と地域経済を守る 日立リストラ茨城対策会議を結成

日立製作所の「事業構造改革」によるグループ子会社の売却や人員削減などから、雇用と地域経済を守る！「日立リストラ茨城対策会議」の結成総会が11月28日(土)、日立発祥の地・日立市内で開催され、労働組合、民主団体と地域から39名が参加しました。

対策会議結成を歓迎し ともに奮闘する

連帯あいさつで、茨城労働の白石勝巳議長は「目の利益優先で人と技術を大切にしない企業に社会的責任を求め、雇用と地域を守るため連帯して闘っていく」と、日本共産党茨城県委員会の田谷武夫副委員長は「大資本は、コロナ禍でも労働者と地域を犠牲にしたリストラを強行している。対策会議結成を歓迎し新自由主義と自己責任論の政治を変えるため、ともに奮闘する」と、力強く話されました。

日立の拠点で 職場と地域から闘いを

電機・情報ユニオンの米田徳治中央執行委員長が「電機リストラとの職場・

地域での闘い、これまでの成果を生かして」をテーマに基調講演を行いました。米田委員長は、1950年の日立工場の5555人首切りでの1000日を超える闘争や1960年代の臨時工、思想差別、不当解雇撤回の大闘争で全国の電機労働者を励まし続けてきた歴史を紹介し、「日立の発祥の地・茨城で闘いを起こすことは、全国の電機職場、地域にとつても重要となる」と強調しました。

続けて、米田委員長は、日立が電機リストラの先頭を行き、労働者の異動を口頭での「下命」で行う近代的な職場支配を

紹介し、「日立はグローバル企業として国際労働基準を守らざるを得ない。国際労働基準で現地・現場の実態を告発し、議会や行政にもキツチリと届け正す。ピラとアンケートで労働者の要求を聞いて闘いを起こす。労働運動と住民運動を一体で活性化

する。対策会議の結成を茨城全県で共有し、日立の拠点で職場と地域から大きな闘いをつくってほしい」と呼びかけました。

対策会議役員から熱い決意

休憩をはさんで、結成総会議案(経過報告、日立の経営と職場実態、会則、財政、役員体制)が準備会の電機・情報ユニオン茨城支部の大内健次委員長より提案され、質疑応答のあと、参加者全員の拍手で確認されました。

出席されていた対策会議役員が紹介され、茨城労働の岡野一男事務局長、日本



11月28日(土)日立リストラ茨城対策会議結成総会

共産党茨城北部地区の福田明委員長、うぶすな法律事務の飯田美弥子弁護士、ひたちなか市の宇田貴子市議、日立市の千葉達夫市議、日立関連労働者懇談会の名雪史也副代表が順次に熱い決意を述べました。

現職の労働者から、「リストラなどで先が見えず、転職して地元に戻るケースをよく見る。安心して長く働ける職場でないと地域の雇用も職場自体も守れない」「声かけがあれば積極的に協力する」の発言も出されました。

最後に、対策会議の馬場豊彦事務局長より行動提起と訴えが行われ、ガンパローを三唱し、たたかいの意思を固めました。(茨城支部書記長 堀啓一)

第111号の紹介

- 1面 日立リストラ茨城対策会議結成総会
- 2面 第6回大阪支部定期大会を開催
米田委員長メッセージ89
- 3面 全労連・東京地評争議支援総行動
- 4面 交流のひろば、告知板、
あとがき